

# 一次産業従事者から見た社会課題

武藤孝義

(有) ホウトク (〒370-2131 群馬県高崎市吉井町岩崎 329)

E-mail: sindousindou@gmail.com

## 1、自給率の向上の為の簡単な方法

今、課題となっているお米の生産をどうするかを考えたとき、農業従事者の高齢化と後継者の不足は明白です。このことを前提に対策を考えれば、生産性の向上が絶対的に必要であり、その為には優良農地から区画の大型化をしなければなりません。1区画 1ha 規模になれば 1戸で 50ha 位の経営面積となり、継続性のある農業経営体が輩出することになるでしょう。歴史的に見ましても、継続性を持った農家は現在の価値に換算して 5000 万円くらいの売り上げ規模を持っていました。此のことは喫緊な課題であります。又、国家 100 年の計とも言うべきことで、農地の整備は後世への大きな遺産ともなりうるインフラです。小農を多く残すべきと発信されている学者方がいますが、どの程度の経営規模を想定しているのか、具体的に表していただけると有難いです。

## 2、日本の農業の高いポテンシャル

日本には世界最高品質の農産物がたくさんあります。恵まれた気候風土と長い歴史に育まれた農産物が、現在の世界最高の食文化を育んだと思います。

日本の国土は北海道から沖縄まで多様性に恵まれており、大きな可能性を秘めています。今後早急に計画を立案し、少なくとも 30 年間は国家方針として継続すれば、日本の農業及び農産物は世界に冠たる評価を得られるでしょう。

オランダや台湾の例を参考に、日本の再興を計画すべきと考えます。

農業の発展を考えると危惧すべき点があり、種苗法と農薬の規制法の 2 点があり、除草剤や殺虫剤の利用による、国民の健康と利益及び環境への影響であります。種苗に関しては大資本による寡占であります。日本の場合各地の試験場での品種改良や篤農家による自家採種や突然変異の効用を評価すべきと考えています。

## 3、政治、行政、農協、農家（1次産業）

農業及び農村は政治的にも行政的にも複雑な規制と因習が絡み合い、産業政策として良いものをより多く生産し農業者及び消費者を豊かにし、ひいては社会を安定的に強化するということになって来なかったのが現在の有様なのだと考えます。現在の状況を見ると非常に危険な状態になってしまっていると多くの人が感じています。しかし、危機はチャンスでもあります。継続性のある農家を育てるには今しかないと思います。国は産業育成の観点から世界の市場に向けて日本の農産物及び加工品の輸出計画を立て、そこから逆算して、方針を策定すべきと思います。それには、世界の市場をよく見、よく知らなければなりません。過去、日本の養蚕業は傾斜地の畑でも桑畑として活用し、全国的に蚕を育て、繭を生産し生糸を紡ぎ、生糸の輸出や美しい和服の生産の元となったのです。また大いに外貨を稼いだのです。今、新しい養蚕業ともいべき品目の発見開発に取り組むべき時であります。

国内の 1 億人ではなく世界の 80 億人を見るべきです。その為の農水省であるべきで、今までの様な

ことでは国を誤ってしまいます。

#### 4、山林の活用の見直し

今、日本の山は泣いています。誰も山の木々に思いを寄せなくなり、経済価値は無くなり、木を切る人も姿を消し、地域の製材所もなくなり、日本の木の家は建設出来なくなってきています。環境面から山や木の大切さを唱える人はいますが、経済性が伴わないと継続的に関与していきません。日本の木を使った建築物や工芸品は世界市場で必ず評価されると思います。日本の大工さんの技術は世界の驚きであります。関係省庁は世界に目を向け発信すべきです。

日本の神社仏閣は世界最高の木造建築であり、伊勢神宮を見て感動しない人はいません。又、神宮林は今後の森林管理の規範とされるべきだと思います。

戦後、植えられた杉檜が良材は直径 30 cm 以上ともなり、今森林を強間伐して後世に残すことが出来れば、日本の山は宝の山となるのです。間伐は環境面や災害防止の観点からも、森林管理の肝であります。気候変動により集中豪雨が多発し、災害被害とその復旧費を考えれば間伐費用は相対的に安いものと思います。前例主義ではなく、国土の大部分を所管する林野庁等は重大な責任を負っているのです。その森林から流れ出る水がおいしいお米を実らせるのです。森林は、おいしいお米の基なのです。農水省の職員は、社会の前衛となり、日本の営業マンでなければなりません。些細な規制を作ることが本来の仕事ではないはずと考えます。日本の自然と歴史に育まれた国土を活用し、人々を健康にし、健やかに暮らせる社会の中心となるべき農林水産省であり、又そうでなければならないのです。国は、公務員に現場の実習を一定期間義務付け、しっかりとした現場感覚を身に着けた人材を育てなければなりません。

現地に出向き、体験して欲しいと思います。内外の市場や田畑を自分の目で見て食べて、どうしたら良いか自ら問うてください。

要は、日本の国土の全てを活用して、世界の一級品を生産し、富を産出することです。その一部の改善策として、優良農地からの大区画化であり、いわば農業面での列島改造であり、山林の管理活用の推進であります。

農村で百姓として 70 年余を生きたものの独断と偏見かも知れませんが、日本の恵まれた諸条件を活用し、国民が豊かに生活する方策としての提案として、ご理解頂ければ幸いです。農業面でのインフラを整えば、農業者は何もしなくても増えてきます。現在行われている新規就農者の募集のような事は必要ないのです。農業は本来素晴らしい仕事なのです。少し経済的余裕が持てれば、誰でもやってみたくなると思います。自然の美しさに囲まれ、自由であり創造的な日々が送れるのです。私は秋に、1 年分のお米を倉庫に積み込むときに、これで金は無いが生きるのに困ることはないし心からの豊かさや安心感を覚えます。車は食べられませんが、お米は本当においしいのであります。

#### 5、働き方改革

この様な、農業的生活から見たときに、公務員や大企業の社員の日々の働き方は、余り楽しく無い様で、働き方改革が必要と思われてきます。

現在の地方の甚だしい衰退と長き停滞はなぜ起きたのか？国の中核で働いている人たちが、自由闊達に社会の発展の為に素直に生きていたら、この様な社会状況にはなっていないと考えています。

バブル崩壊以降、今だけ、金だけ、自分だけと言われる様な利己主義と内向きの風潮が蔓延し、社会の活力が無くなり、生きる上で窮屈な社会状況が起きてしまっているのだと認識しています。ではどうしたら良いか？私は思います。皆農家のように個人事業者になるのです。社会も企業も変化が必要です。AI がものすごいスピードで進化しています。その結果、大企業のホワイトカラーと言われる人々が一番大きな影響を受けると見られていますが、どうしたら良いか？それはどんな事でもよいが、自分

はこれで生きていけると言う能力を身に着ける事だと思います。そして、日々の行動が全て自分に反映される事となれば、もっと違った働き方になると思います。現在の大企業の社員、経営者も組織の中に居れば良い待遇が得られる為に、真に企業人として必要な創造的な仕事から離れて日々過ごされている方が多いように感じています。まず、周囲の人の顔を見て忖度を重ね本来の組織の存立意義は二の次になってしまい、今の停滞になってしまっている様に思われます。深い社会的病状だと考えています。此のことは互いに不幸な事であり、優れた人の能力を生かさないうちに成ってしまっていると思われま

ず。一人ひとりを見れば素晴らしい人の集まりが、余り素晴らしくなく成果が出ないのはなぜか？ですから働き方改革が必要なのです。皆、気概を持ち独立した個人になるのです。誰にも頼らず、自己責任で自由に自らの工夫で生きるのです。そうすると真に生かされている事に気が付きます。自然や社会から様々な恩恵を与えられている事を気づかされます。其の事により本当の豊かさが得られるのです。嫌でも技術進歩により、働き方は変わらざるを得なくなりますから早く準備し行動する事が大切であると思います。働き方改革により自由と活力と独立を得られる様に社会制度を変えることが求められていると思います。

中央省庁で働く人の給与と地方の支所で働く人の給与がほぼ同じと言われていたことが事実であれば、大きな不平等であると思います。中央で働く人には給与を2倍以上にして、地方公務員は地方の平均給与に準じた位に変更すべきだと思います。なぜかという、中央の人は生涯賃金を確保する為に天下りを繰り返すようになり、社会の活力をそいでしまっている様に思います。

逆に、地方の公務員の方は、地方での上級市民的立場となり、地方での様々な課題に対し直面しなく

なり、現場で働く人との認識の相違が大きくなってしまい、双方において生産性や市民に対しての共感性の欠如が起きやすくなっている様に思われます。此のことは、今後の社会の活性化を考えるときには必ず取り組まなければならない事と思われま

ず。政治に関わる人達の見識が問われているのだと思われま

ず。食糧を生産できたとしても、エネルギーの供給はどうするのかという議論がすぐ起きますが、技術進歩と規制の見直しにより、乗り越えられると考えま

ず。まずペロブスカイト等太陽電池は大変有望です。海面を活用して大規模な発電が可能で、早く国内メーカーに大量生産して欲しいと願っています。世界中に輸出をすべく計画して実行するのです。諸外国に負けないスピードと価格が求められています。水素や人工石油の技術も進歩して来ていますので、安心して安全なエネルギーの発展に注力していけば、供給は遠くない中に可能となるでしょう。

其処においても、前例を踏み越えていく勇気や胆力とともに次世代に貢献していくという前向きな心が大切であると考えま

ず。要は一人一人が個人の尊厳の元に、社会の安心安全と発展を常に考えて、全力で活動して行けば、必ず善くなって行くと思

っています。大地震や戦争、気候変動の課題は今後も続くと思

いますが、日本の将来世代の為に、安心、安全で希望に満ちた豊かな社会の構築のために、一人一人がまた皆で協力して進んでいければと願っています。

ご清聴ありがとうございました。

謝辞：最後に、今回の機会を与えてくださいました井之上喬先生とご縁を繋いでくださいました山越厚様に重ねて感謝申し上げます。